



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	クズネツォーヴォ1遺跡（1979—2001年の調査結果）
Author(s)	カシツィン, P. V.; 金, 賢善
Description	金賢善訳
Relation	オホーツク文化形成期の諸問題 = Problems on the formative stage of the Okhotsk culture
Citation	北海道大学総合博物館研究報告, 1, 41-44
Issue Date	2003-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38398
Type	departmental bulletin paper
File Information	no1_p41-44.pdf



クズネツォーヴォ 1 遺跡 (1979 - 2001 年の調査結果)

P. V. カシツィン (金 賢善訳)

The Archaeological Complex of the Kuznetsovo 1
(according to the investigations of 1979-2001)

KASHITSIN Pavel

The Kuznetsovo 1 is a multi strata site and situates at the Nevel'sk district in Sakhalin region. Kimura S. and Ito N. investigated this site first, and since 1979 until now the staff of the Laboratory of Archaeological Research of Sakhalin State University have studied it. Golubev V. and Vasilevski A. have excavated total area of 450 m².

Two main layers were distinguished: the lower belonged to the Epi-Jomon, the Susuya, and the Towada cultures (2,750±150; 2,384±270; 1,640±340 BP), and the upper was of the Enoura and the Minami Kaiduka periods of the Okhotsk culture (VII-XIII cal AD). The Ainu cemetery of XVI-XVII cal AD was found in the upper layer of the site.

クズネツォーヴォ 1 遺跡群はサハリン州のネベリスク行政区に存在する。これらの遺跡群は 1930 年代に日本の考古学者木村信六と伊東信雄によって初めて調査された。1970 年代にはロシアの V. O. シュービンがここを訪れている。

1979 年から 20 年間これらの遺跡群はサハリン大学考古学調査室の考古学者達 (ゴルベフ V. A., ヴァシリェフスキー A. A.) によって調査された。

発掘調査 (1979-85 年) および試掘調査 (1979-2001) を含む総合調査の結果、縄文文化からアイヌ文化に至る遺構の層位的関係が明らかになった。発掘作業の過程において、450 m²の面積が調査され、発掘作業の全域において観察された 2 つの文化層が明らかにされた。

上層は江の浦式と南貝塚式の段

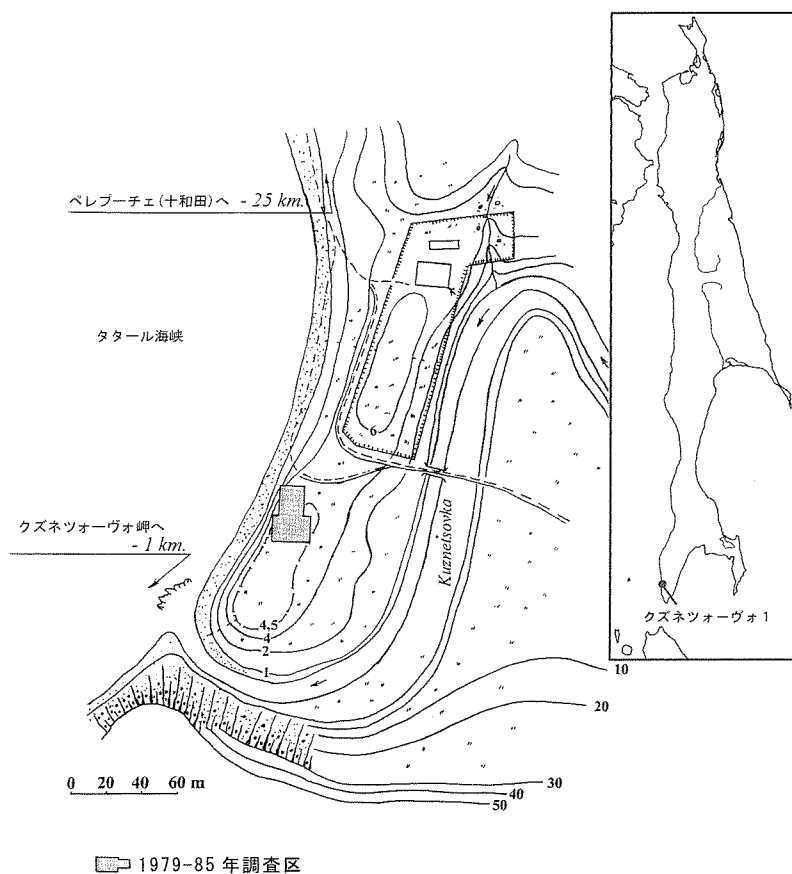


図 1 クズネツォーヴォ 1 遺跡周辺図

階におけるオホーツク文化の資料を含む（放射性炭素年代 $1,640 \pm 340$ – 905 ± 74 年）。第1文化層では、後世に掘りこまれたアイヌの墓（AD16–17世紀）が確認された。

2つの文化層は風食作用により形成された層厚0.6–0.8 mに達する無遺物の砂層によって隔てられている。下層の第2文化層において竪穴住居址の窪みが3箇所検出された。放射性炭素年代測定法のデータによると第2文化層の年代は $2,750 \pm 150$, $2,384 \pm 270$, $1,640 \pm 340$ 年の範囲内にある。これらの特徴は以下の通りである。2つの住居は文化層基底に属し、住居No. 3は下部の文化層に直接掘られている。

上記の特徴を考慮して興味深いのは、下層の住居にともなった遺物である。土器コンプレックスには放物線状、卵形状又は球状の胴と尖底をもつものがあり、円錐形の底をもつものも存在する。土器の施文において卓越する技法は、貼付文・絡条体圧痕文・縄文・絡条体を回転させた撚糸文・縄目文（縄線文）・突瘤文（真珠文）・刺突文・櫛歯文を含む型押文である。

磨製石器の中で代表的なものは、石斧、鑿、手斧で、これらは主に安山岩、玄武岩と頁岩製である。これらの石斧類は台形状で断面は主として正方形である。剥片石器には尖頭器、搔器、ナイフ等がある。

考古学調査の資料と放射性炭素年代測定、花粉・孢子分析のデータをまとめると、クズネツォーヴォ1遺跡の第2文化層の年代はほぼ紀元前1000年紀–西暦1000年紀の範囲内にあり、続縄文、鈴谷文化と十和田文化の範囲内であると考えることができる。

第1文化層の資料は多い。これらは石器製作や土器製作のために季節的に利用されたキャンプサイトの炉の附近で採取された資料である。ここでは住居址の屋根材が見つかった。それは竪穴の屋根の残存物であり、笹やサハリソバなどの厚い層である。ガラス玉の発見によりこの住居は中世後期に属すると考えられる。この上層のオホー

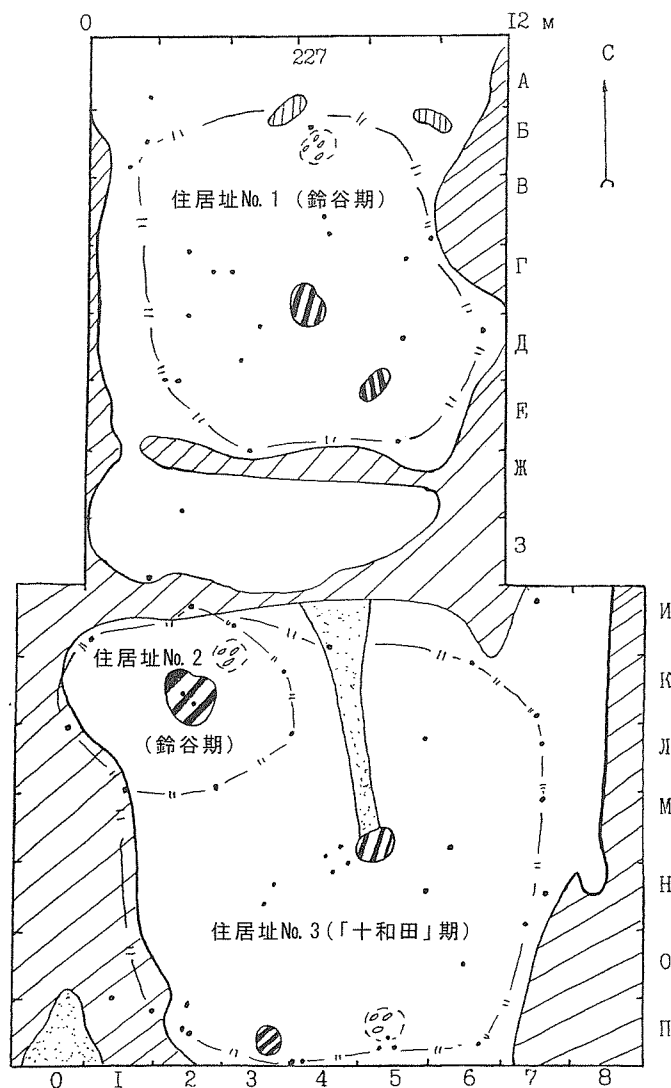


図2 1979–85年の調査により検出された竪穴住居址（第2文化層）

ツク文化層を掘込んでアイヌ文化の墓が設けられている。

現在、遺跡の文化層の70%以上が発掘されたと考えられる。残された約200–250 m²の文化層は「クズネツォーヴォ岬」漁業企業の敷地内に存在する。遺跡の保存を管理しているのはサハリン大学考古学研究室である。

註

ワシリェフスキー, A. A. 1992 「サハリン島の新石器文化」 (『北海道考古学』28:115–136) の第7図1 (p. 129) の住居址平面図は、「クズネツォーヴォ1遺跡, 第1号」とされているが、「スタラドゥプスコエII遺跡」の誤りであるので訂正しておく (天野)。

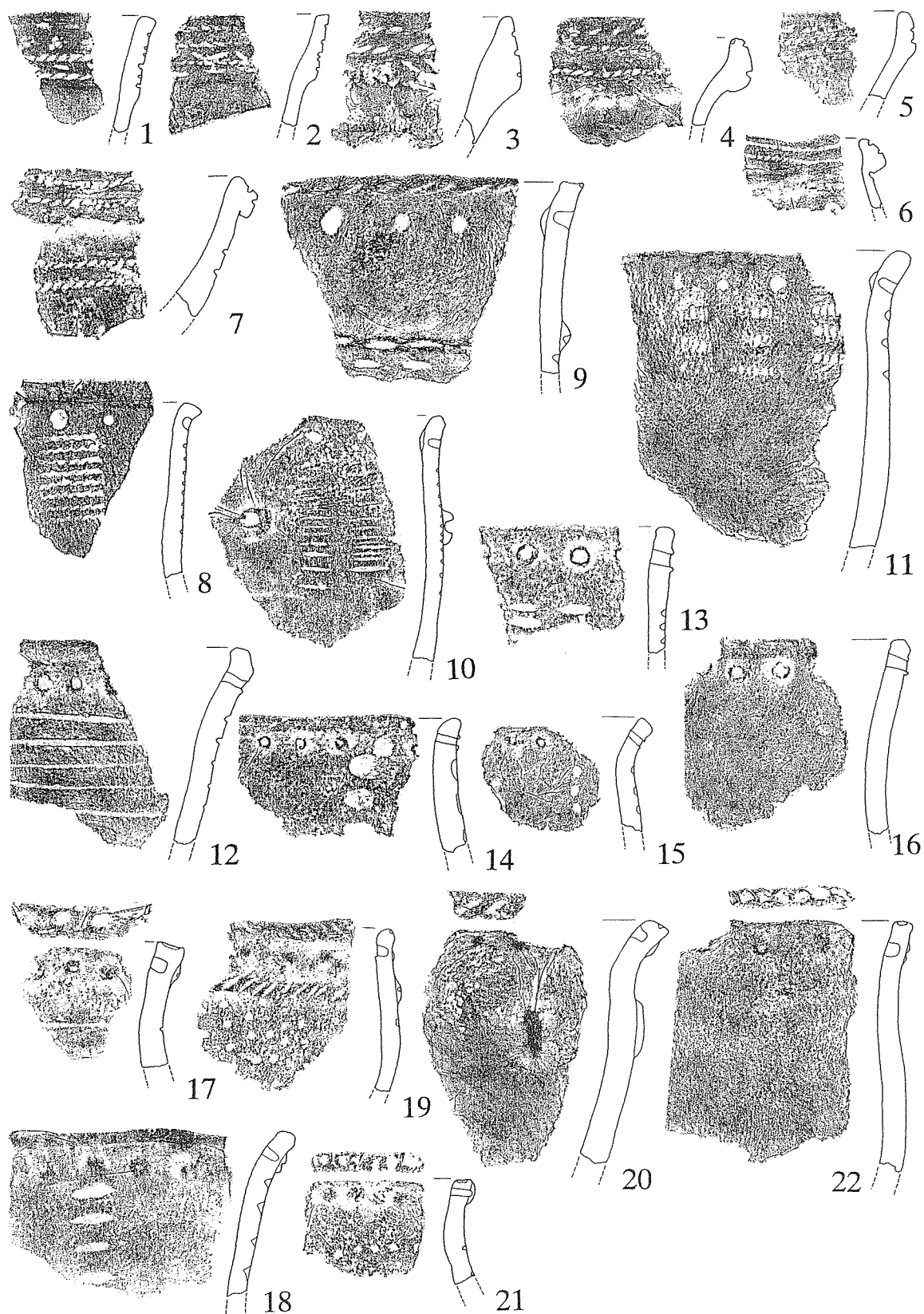


図3 クズネツォーヴォ1遺跡出土のオホーツク式土器

1-7:「江の浦式」土器のうち縄線文をもつ資料, 8:「十和田式」土器のうち縄線文をもつ資料, 9-11:「十和田式」土器, 12-16:「十和田式」土器のうち突瘤貫通孔をもつ資料, 17-21:「十和田式」土器のうち突瘤文をもつ資料 (縮尺 1/2)

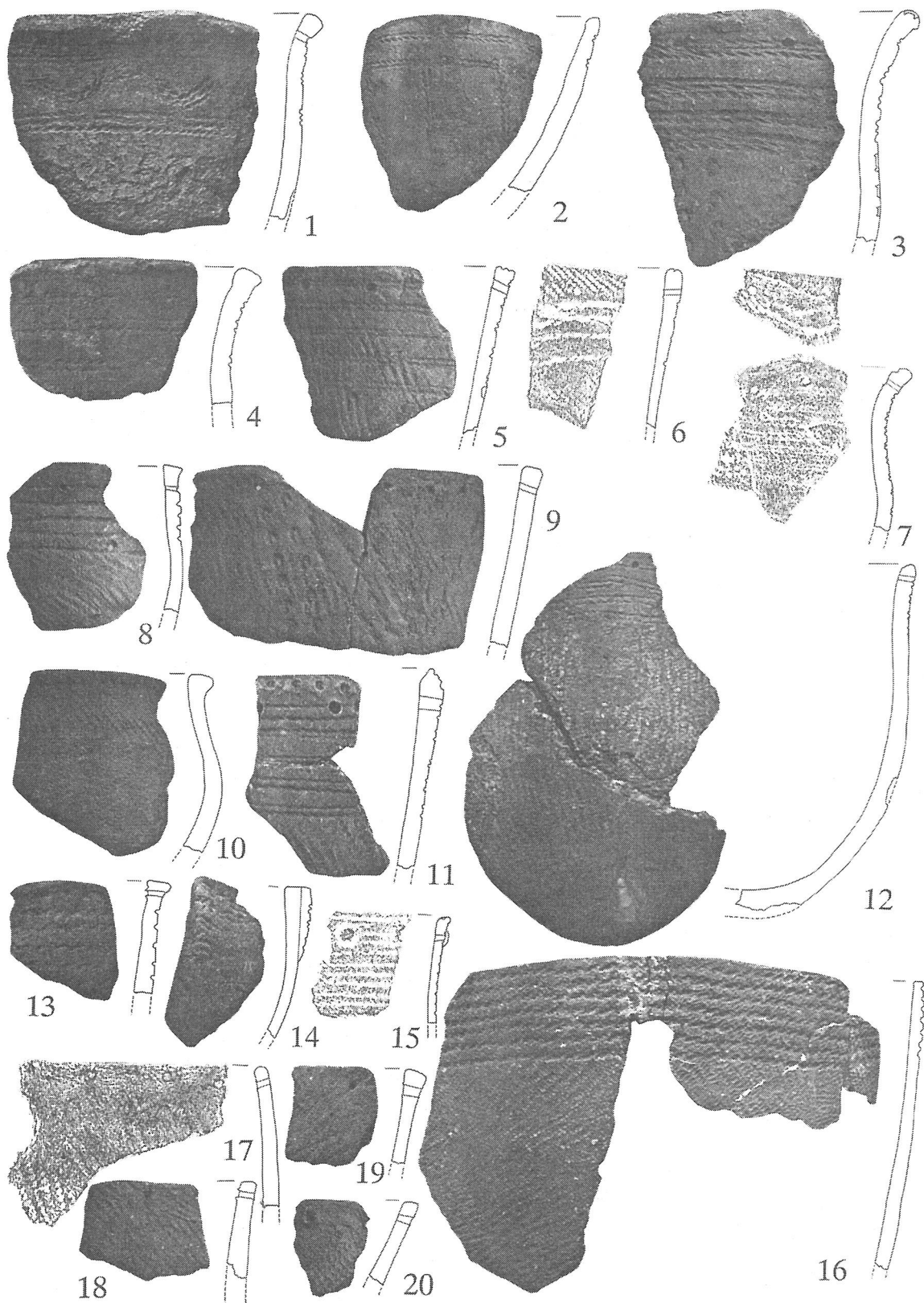


図4 クズネツォーヴォ1遺跡出土の「鈴谷式」土器と続縄文土器

1-3: 縄線文をもつ「鈴谷式」土器, 4-16: 地縄文と縄線文を併用する続縄文土器（これらの大部分は貫通孔をもつがNo. 15は突瘤文をもつ例）, 11: 「クリリオン・タイプ」, 17-20: 「アニワAタイプ」（縮尺1/2）